



1月の園だより

令和6年 1月 4日

目黒区立目黒本町保育園 園長

あけましておめでとうございます

5歳児クラスの子どもたちが作ったしめ縄が玄関に飾られ、新しい年が始まりました。久しぶりに会った友達にお休みの間の出来事を嬉しそうに話している子どもたちの姿を見てご家族と楽しい時間を過ごしたことが伺えます。年末に各幼児クラスで生活リズムの話をしました。「早寝、早起き、朝ご飯」をテーマに3歳児クラスでは保育士が寸劇をして「朝ごはんいっぱい食べたからお友達と鬼ごっこできるぞ」というセリフを笑顔で見聞きしていたかと思うと眠たくて遊べない子役が、タブレットで動画をみて寝るのを嫌がる場所を演じると、自分の目を両手で覆ったり、友達と顔を見合わせて苦笑いをしたりして家庭での様子を告白しているようで笑ってしまいました。4、5歳児クラスはご家庭に協力いただき、起きる時間、寝る時間を決めて、時計の絵に針を書き入れ、出来た日はパンダの塗り絵に色を入れ、「今日は早起きしたよ」と朝リュックから絵を出して保育士に見せています。看護師の話を理解して継続している子どもたちの姿を頼もしく思います。子どもたちが意欲的に様々なことを経験し、友達と元気いっぱい遊んで興味や関心を広げるためには生活リズムを整えることが大切です。園目標である「心もからだも元気な子ども」を目指し、保護者の方々と保育園と一緒に子育てをしていきたいと思ひます。

今年もよろしくお祈ひします。

行事予定

新年お祝ひ会
ポニー教室
身体計測・避難訓練 中旬頃

警察、泥棒を逃がすな ～ドロケイ～

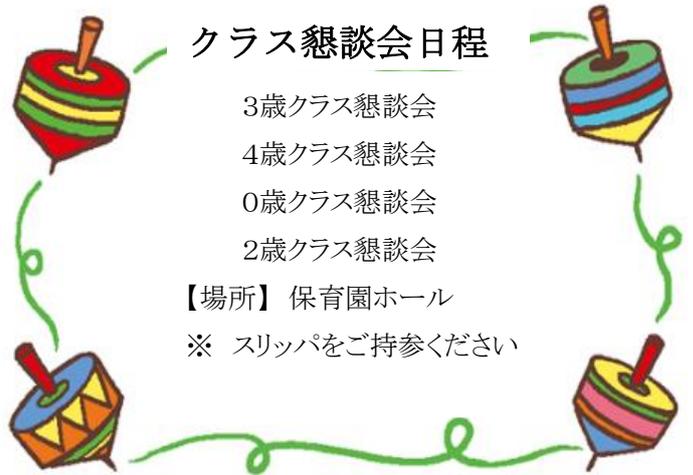
幼児3クラスで林試の森公園へ散歩に行った時のことです。5歳児（らいおん組）が“ドロケイ”を始めると3歳児（こぐま組）と4歳児（ぞう組）の子が来て「やりたい」と言うので「こぐまさんとぞうさんも一緒に入れてくれる」と話すと「いいよ。じゃあ鬼決めしようか」「最初はらいおん組が鬼をやるよ」と話し合い、らいおん組が鬼となりました。どの木を目印にして牢屋にするかを話し合い「ここが牢屋ね。つかまったらここに来なきゃいけないんだよ。わかるかな」と年下の子に一生懸命ルールを伝えていました。広い場所で思い切り走って逃げるので5歳児には追いかけがいがあり、牢屋を守るときも右往左往と素早いカニの足運びのようです。泥棒は捕まった友達をこっそり助けに行こうと後ろから回り込み、守りが手薄になっているタイミングを見てすかさず助けにいき「助けた、よし」とガッツポーズで友達と喜び合っていました。こぐま組は果敢に捕まっている友達を助けようとして捕まってしまうのですがそのドキドキ感が楽しいようです。そして、ぞう組は絶対に捕まりたくない気持ちや自分なりに作戦を考えて捕まらないよう遠くに逃げたり、木の陰に隠れたりしていました。5歳児の遊びを見て、興味を持ち異年齢と一緒に遊ぶことでそれぞれ年齢ごとの楽しみ方の違いが伝わってきます。



クラス懇談会日程

3歳クラス懇談会
4歳クラス懇談会
0歳クラス懇談会
2歳クラス懇談会

【場所】 保育園ホール
※ スリッパをご持参ください





乳児クラスのお部屋から



ひよこ組（0歳児）

保育士がくまの人形に布を掛けて「ねんねこせー」と子守唄を歌いながら寝かしつけている様子をじっと見てそばにやってきました。隣のくまの人形にも布を持って掛けてあげています。布は丸まったり、顔まで掛かったりともだ力の加減がわからず胸や頭をトントンしながらも一緒に鼻歌交じりに『せー』と歌の語尾を歌っては保育士と同じように寝かしつけをしているつもりのようです。

「くまさん寝ちゃったね」と人差し指を口元にあてて小さい声で話すと「ねんね」と言って“しー”とジェスチャーを真似ています。すると、その様子を見ていた子がやってきて同じように“トントン”を始めます。よく見るとくま人形ではなく、横に置かれた布に手を置いて動かしていました。もしかしたら、くま人形を寝かしていることには気が付いていなかったかもしれませんが、友達や保育士のすることに興味を持ち“やってみようかな”という思いが芽生え始めています。



りす組（1歳児）

牛乳パックを複数使って作ったパック積木を救急車に見立て、またがり、床を足裏で蹴りながら「ピーポーピーポー」と声に出し室内を進んでいました。部屋全体を広い道路のように使い友達の遊んでいるところは上手に避け「とおりますよ」と言いながら移動しています。少し離れた場所ではレンガ積み木を並べ、その上に動物積み木を寝かせて病院ごっこをしている子がいます。その横に保育士がクマの人形を並べて「くまちゃんが怪我しちゃったんです。病院まで連れて行ってください」と通りかかった救急車に伝えるとハキハキと「わかりました」と後ろに乗せて病院ごっこをしている友達のところへ連れていき「くまちゃんおげがです」と渡しています。病院ごっこをしていた子が「はい」と積み木人形やくま人形にフェルトベルトを巻いて手当てをしている様子を最後まで見守り、手当てが終わるともう一度救急車に乗せて「くまちゃんだいじょうぶ」と保育士の元へ連れ帰ってきてくれました。しばらく同じようなやり取りを保育士や友達と楽しんでいました。日々の生活の中で経験したことや見たものを再現して遊ぶことが増えています。一緒に遊ぶなかで“こうかな、こんなことしたいのかな”と子どもたちの再現したいことを探りながらごっこ遊びでのやりとりを楽しんでいきたいと思います。



うさぎ組（2歳児）

積み木を縦に並べていき、囲いのような形ができています。「大きくなってきたね」と声を掛けると「うん、これ動物園。この前行ったの。きりんがいっぱいいたよ」と嬉しそうに話し、積み木で同じ動物を集め家を作っています。「きりんさん何をしていたの」と保育士が聞くと「葉っぱ食べてた」と大きな木を選び、きりんを動かしむしゃむしゃと食べさせています。「私も動物園いったよ」と隣でやり取りを聞いていた友達も一緒に遊び始めました。見守りながら「動物園誰といったのかな」と聞くと「パパとママといったよ。こっちからこうやって」とイメージが膨らみ傍に置いておいた人形を手に取り、自分やお父さんお母さんに見立て入口から入って動物が見える所に置き「こっちは馬にしよう」と動物も次々増えていきます。「動物園どんどん大きくなるね」と保育士が声を掛けると二人で顔を見合わせて笑い合いながら子ども同士で経験したことを話し、積み木や再現遊びを通して一緒に楽しむ姿が見られるようになってきました。夢中になっている時は見守り、子どもたちのイメージが広がるように保育士も一緒に遊んでいきます。

